



2008-09



国際ロータリーのテーマ「夢をかたちに」会長/李 東建(韓国、ソウル)

2620地区のテーマ「楽しく魅力あるロータリーを目指して」ガバナー/牧田 静二(静岡RC)

パワー浜松ロータリーのテーマ「情熱を内に、パワーを外へ」会長/高木 一浩

週報

第275回例会 10月7日(火)AM7:30~8:30 オークラホテル4F平安の間
司会; 加藤ひとみ 点鐘; 高木一浩 ロータリーソング; 希望のエナジー
ゲスト; 末広さくら様(新入会員予定者)

会長挨拶

福田和禾子先生が、10月5日、66歳という若さで急逝されました。10月21日の7周年記念例会には、福田先生にもお越しいただいて、西遠女子学園の皆さんのロータリーソングの発表を予定していただけに、大変残念でございます。ご冥福を心よりお祈り申しあげます。さて、先日麻生内閣が発足しまして、当クラブのメンバーである塩谷立さんが文部科学大臣ということで、初入閣されました。われわれの仲間から大臣が出たということは、大変喜ばしいことでございます。

幹事報告

【幹事報告】 1. 配布物=ロータリーの友10月号 メールボックスに配布しました。ガバナー月信10月号 回覧しています。 2. 退会者のご報告 藤田昌弘(ふじた まさひろ)さん 9月理事会にて退会願いが承認され、9月末日付にて退会されました。 ビュー広場10月のお題「食」食欲の秋です。健康には欠かせない「食」について考えてみましょう。

委員会報告

歌の会(金山氏)=福田和禾子さんは、10月5日、NHKで収録していらっやあって、その仕事の後、休憩室で休憩してらっやるときに、心臓発作を起され、慶応病院に入院されましたが、残念ながらそのまま急逝されたそうです。明日、お通夜、明後日、ご葬儀の予定です。なお、先生は21日に開催するロータリーの歌の発表会(7周年記念例会)を楽しみにしていらっやいまして、わたしも、30年来の友人を亡くしまして、本当に辛く、悲しい思いでいっぱいです。西遠女子学園の皆さまも、21日に向けて、一生懸命練習をしてくださっていますし、福田先生のご供養のためにも、ぜひ、21日の例会には、皆さま出席していただきたいと思ひます。

歌の会(小澤氏)=お願いでございます。先日、西遠州女子学園の合唱部の皆さんにお願いしまして、CDの録音をいたしました。西遠の子ども達は本当に一生懸命歌っていただきました。21日には、例会で生で歌の披露を行います。ぜひ、100%出席をお願いします!



故・福田和禾子先生へ黙禱

出席報告

97名中69名71.13%
前々回修正出席率70.10%

スマイル報告

原田道子; 『資産を増やす不動産購入術』のセミナーを開催し、自ら体験したノウハウと決断を不動産・建築関係、銀行関連に公開。塚田恭民; 「ありがとうキャンペーン」が今年で5回目。来年は15周年、更なる感謝の気持ちをご提供出来る様イベントを企画。大屋広康; 10/5(日)クリエイティブ浜松で木の住まいデザインコンクール表彰式。『土間のある家』が「中日新聞社賞」を受賞。ゴルフ同好会; 9/27(土)一泊例会の翌日、浜松C.C.で本年度第一回青空例会を開催。原田進さんがベストグロスで完全優勝。





2008-09



国際ロータリーのテーマ「夢をかたちに」 会長/李 東建(韓国、ソウル)

2620地区のテーマ「楽しく魅力あるロータリーを目指して」 ガバナー/牧田 静二(静岡RC)

パワー浜松ロータリーのテーマ「情熱を内に、パワーを外へ」 会長/高木 一浩

議事卓話

職業奉仕委員会 卓話「日本の花火」

日本の花火(社)日本煙火協会相談役 小口昭三さんの卓話「日本の花火」

みなさん、おはようございます。早朝から大変でございます。わたしは、職人でございます、学者でもなんでもございませぬ、従って、お話しは下手でございます。私の人生、80年を振り返ってのお話ですので、お聴きくるしい点があるかもしれませんが、ご容赦ください。

夏になると、このあたりでも花火が沢山あります。浜名湖あたりも花火大会もいっぱいでございます。ですけれど、いざ、花火がどういったことかといいますと、殆どご存知ない方が多いと思います。

中国では、4000年の歴史が、花火にございます。7世紀ぐらいが最盛期でございます、硝石をつかっていまして、だんだんと花火になってきたんですね。

日本では、その最初は鉄砲でございます。種子島に南蛮船がつかまして、その南蛮から来た技術を使いまして、鉄砲を日本でも作るようになりました。信長の時代になりますと、鉄砲を量産するようになりました。しかし、戦国時代が終わりまして、平和の時代になりますと、鉄砲用の火薬が余ってきまして、それで、それを流用して花火の文化が出来上がってきたわけです。鉄砲の火薬を花火に流用しはじめたのは、三河の人たちなんです。もとは三河ということでございます。

そして、三河には、もうひとつ、三河万歳というものがあります。これは、いわゆる大衆芸能でございますが、この三河万歳がまわった地域は、それとともに、花火が全国に広がったという経緯でございます。

さて、現在の花火は、花火の光が強いものでございます。これは、明治の末に、マッチをつくる技術が入ってきました。これには、塩酸カリという温度が非常に高くなる薬品が使われていて、これを取り入れて、花火の技術が進歩したわけです。しかし、これは非常に扱いが難しく、事故も多かったわけです。そんなことから、もう少し安全な薬品が無いか、いろいろと考えられまして、過塩素酸カリが良いということで、現在の花火になっているわけです。

